

令和 年 月 日

「生徒指導の実践上の視点」を踏まえた授業づくりのためのチェックリスト  
( )

視点	No.	手立て（項目）	自己評価			
			4	3	2	1
自己存在 感の感受	1	児童生徒の考えや様子を捉えて、承認や称賛、感謝、励まし等を行っている。	4	3	2	1
	2	ICTを活用するなどして、個別最適な学びを実現できるようにしている。	4	3	2	1
	3	つぶやきを積極的に取り上げて、発表のチャンスとしたり、全体で共有したりしている。	4	3	2	1
	4	児童生徒が協力して学習できるように、ペア学習やグループ学習を取り入れている。	4	3	2	1
	5	意図的に机間指導を行い、個に応じた支援をしている。	4	3	2	1
共感的 な人間 関係の 育成	6	教師自らが自己開示し、相手の立場に立って考え、発言する姿勢を示している。	4	3	2	1
	7	児童生徒の発表に対して、うなずきや相づちで応え、共感的に受け入れている。	4	3	2	1
	8	児童生徒同士の発言をつなげ、集団での学び合いとなるようにしている。	4	3	2	1
	9	発表に対しては、発表者の方を向かせたり、反応したりする雰囲気を作っている。	4	3	2	1
	10	相互評価など、お互いの良さを認め合う活動を取り入れている。	4	3	2	1
自己決定 の場の 提供	11	児童生徒が学びの見通しがもてるよう、めあてをつくったり、本時のゴールを共有したりしている。	4	3	2	1
	12	課題解決に向け、個人で調べたり、考えたりする時間を確保している。	4	3	2	1
	13	自分の考えをみんなの前で発表する場を設定している。	4	3	2	1
	14	多様な考えを引き出すような発問の工夫をしている。	4	3	2	1
	15	学習のまとめと振り返りを自分の言葉で書き、これからの学習につながるような場を設定している。	4	3	2	1
安全・ 安心な 風土の 醸成	16	授業における約束事を児童生徒と共有している。	4	3	2	1
	17	授業開始時刻で始め、授業終了時刻に授業を終えている。	4	3	2	1
	18	ユニバーサルデザインの視点を取り入れた学習環境づくりをしている。	4	3	2	1
	19	教師が児童生徒の名前に「さん」付けするなど言語環境を整え、模範となっている。	4	3	2	1
	20	児童生徒の他者を傷つけるような不適切な言動には毅然とした態度で指導している。	4	3	2	1